

小さな拠点づくり



さんべい かつとし
三瓶 一壽 議員

QR 質問者の録画映像
はこちから

Q 小さな拠点の具体的な
イメージは

A 地域ごとに交流の場を設け、支え合いの仕組みづくりを進めるイメージ



<参考事例:中郷学校>
みんなで考えよう!小さな拠点に必要な機能

公共交通



すずき 利一 議員

QR 質問者の録画映像
はこちから

Q 全体の考え方は

A バスやタクシーなど様々な組み合わせを考える

三瓶 トシティのあり方をたずねた

時に、三春町の居住空間は7つの地区に分けられ、多くの方々が居住している旧町内・岩江地区と、他の5地区に分けて検討する必要があると答弁があった。これら5地区において、町の考える「小さな拠点」の具体的イメージとは何か。

町長 人口減少や少子高齢化が進み、社会情勢が大きく変化していく中で、地域を維持していくための取組みや環境づくりをイメージしている。地域と行政が、それぞれの役割の中で協働して取り組むための拠点としては、人々が良く集まる地域の公民館や小学校などが考えられる。西日本の過疎が進んでいる山村地区などでは、もうすでにそ

いつた活動に取り組んでいる実例があるので参考したい。三春町では今、学校再編で廃校となる施設等の再利用について、府内でプロジェクトチームをつくり、地区の方々の意見も十分参考にして取り組もうとしている。

鈴木 10月から実証運行している定額乗合タクシー「こまシェア」の利用者数は。

住民課長 現在の登録者は37名であり、目標の50名には達していない。

鈴木 何名登録すると定着したと考へるか。

鈴木 50名は民間事業者の採算性を考えた人数設定である。

住民課長 「こまシェア」の運行には国の補助金が入っているが、いつまで続くのか。

鈴木 次年度以降についても利用できるよう、国へ申請を行っていく。



定額乗合タクシー「こまシェア」



三春町営バス

ような運行方法は考えられないか。

住民課長 今行っている実証運行の検証を行い、回数での運行が可能か今後検討する。

鈴木 町全体の公共交通の考え方。

住民課長 人口が集中する地域の公共交通は町営バスを軸にして、町営バスでカバーできない部分は「こまシェア」や「おでかけ応援隊」、民間タクシーなどの組み合わせで交通体系を考えていく。